

神戸市带状疱疹ワクチンの接種料一部補助制度

予防接種の効果や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、医師に質問し、十分に理解してから接種を受けてください。予診票は、医師が予防接種の可否を決める大切な情報です。正しく記入してください。

带状疱疹(たいじょうほうしん)はどんな病気？

带状疱疹は、神経の流れに沿って体の片側の一部にかゆみ、ピリピリした痛みといった症状が出た後に、赤い水ぶくれ(水疱)が現れる病気です。

この病気は、過去にかかった水ぼうそう(水痘)のウイルス(水痘・带状疱疹ウイルス)が原因で起こります。水ぼうそうが治った後もこのウイルスが体内に潜伏しており、加齢や疲労などで免疫が低下したときに活性化することによって発症します。

成人のほとんどの方がこのウイルスに感染していると考えられており、带状疱疹を発症するリスクがあります。患者は、50歳代から増え始め、80歳までに約3人に1人が带状疱疹を発症するといわれています。

なかには、発疹が治った後も痛みが残ることがあります。3カ月以上続くものを带状疱疹後神経痛(PHN)といいます。症状は人によってさまざまですが、日常生活に支障が出るほど強い痛みが出る場合や、数年にわたって症状が続くこともあります。50歳以上で带状疱疹を発症した方の約20%がPHNになるという報告もあります。

そのほかにもさまざまな合併症があり、目や耳に障害がでたり、まれに髄膜炎、脳炎など生命に関わるような合併症を生じることがあります。また、視力低下や顔面神経麻痺などの後遺症が残る可能性があります。

ワクチンの効果

ワクチンには発症を予防する効果があります。ワクチンを接種することによって発症を100%防ぐことはできませんが、かかった場合でも重症化を防ぐ効果が期待されています。ワクチンは2種類あります。接種回数や費用、注意点などが異なるため、以下の表を参考に、医師にご相談ください。

ワクチンの種類	生ワクチン (ビケン)	不活化ワクチン (シングリックス筋注用)
接種回数	(皮下注射)1回	(筋肉内注射)2回 1回目から2か月の間隔をあけて、かつ6か月以内に2回目の接種を行う
効果の持続期間 (目安) ※厚生省科学審議会資料より	5～10年程度	10年程度
1回の接種費用(目安) ※医療機関によって異なります。	8,000円～10,000円程度	20,000～25,000円程度
副反応 (頻度の高いもの)	注射部位の赤み・かゆみ・はれなど、発疹、倦怠感などがでることがあります。 赤み(44%)／かゆみ(27%)	多くの方に注射部位の痛みや腫れがあらわれます。そのほか、注射部位以外の筋肉痛、疲労や頭痛などの症状が出る場合があります。 痛み(78%)／赤み(38%)
ワクチン接種ができない方	・免疫が著しく低下する疾病の方(免疫不全状態の方) ・免疫を抑える治療中の方(免疫抑制状態の方) ・妊娠している方	・ワクチンの成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある方
接種する場合の注意事項	他のワクチンを接種される場合、このワクチンを接種してから28日以上あけて接種してください。新型コロナワクチンとは同時に接種できません。新型コロナワクチンを先に接種した場合、原則として14日以上あけて接種してください(2週間後の同じ曜日から接種可)。	新型コロナワクチンとは同時に接種できません。新型コロナワクチンを先に接種した場合、原則として14日以上あけて接種してください(2週間後の同じ曜日から接種可)。

※副反応やワクチン接種ができない方、接種する場合に注意を要する方については、予診票等もご覧ください。

神戸市による接種料一部補助の対象となる方

接種日時点で神戸市に住民登録がある、50歳以上の方

※ただし、兵庫県下の他の自治体で同様の補助制度を利用した場合を除く

補助の内容

補助回数:1回(不活化ワクチンは2回接種が必要ですが補助は1回限りです)

補助額:4,000円(生ワクチン・不活化ワクチンいずれを接種しても補助額は同じです。)

予防接種を受けることができない方

- ① 接種当日、明らかに発熱のある方(一般的に、体温が37.5℃以上の場合)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ ワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーショック(※)を起こしたことが明らかな方
(※通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましん等を伴う重いアレルギー反応のこと)
なお、他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は予防接種を受ける前に、医師にその旨を伝えて接種を受けられるかどうかご相談ください。
- ④ その他、医師より不適切な状態と判断された方
- ⑤ 表(おもて)面の「ワクチン接種ができない方」に該当する方

予防接種を受けるときに注意を要する方

- ① 心臓、腎臓、肝臓、血液、発育障害等の基礎疾患がある方
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断を受けている方、近親者に先天性免疫不全の人がいる方
- ⑤ ワクチンに含まれる成分によって、アレルギーを起こすおそれのある方
- ⑥ 妊娠の可能性のある方

予防接種後の注意事項

- ① 接種後24時間(特に30分以内)は副反応の出現に注意してください。
- ② 接種後1時間を経過すれば、入浴は問題ありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。
- ③ 接種部位を清潔に保ちましょう。

予防接種後の副反応(ワクチンによって異なる副反応等は表面の表や予診票などをご参照ください)

接種後に接種部位の発赤・痛み・腫れ、発熱・寒気・頭痛・倦怠感などの副反応が出ることがありますが通常2～3日のうちに治ります。また、他の病気が偶然重なって現れることもあります。接種後に高熱やけいれん等の異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

重大な副反応として、まれにアナフィラキシーショック(じんましん、呼吸困難等)、血小板減少などが現れることもあります。接種後、体調に変化があった場合は、すぐに接種医にご相談ください。医師の治療を受けた場合の費用は原則、自己負担です。

予防接種健康被害救済制度

接種後に重い健康被害が生じ、入院治療が必要となったり、その後に障害が残ったりした場合には、健康被害救済制度の対象となる場合があります。副反応や予防接種健康被害救済制度について不明な点がある時は、神戸市保健所保健課(電話:078-322-6788/FAX:078-322-6732)にご相談ください。